

ホームID	ホーム名		法人名			評価日	
2833	浜松ゆうゆうの里		一般財団法人日本老人福祉財団			H29.1.24	
評価機関	特定非営利活動法人あい・ライフサポートシステムズ					H29.2.8	

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	B	B	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所 見
1-4-1	職員の育成計画表が、個人ごとに作成されており、何年目までにこういうスキルを身につけると次の段階に進め、受けるべき研修、取るべき資格が明確にかつ詳細に示されています。入社から20年目までの長期にわたる目標設定がされており、個人が自身の課題をクリアしながら、将来の展望が浮かんでくるような意欲向上に繋がる取り組みを行っています。
2-3-3	サービス向上委員会が設置され、多職種の各課からリーダーが20名近く参加し、遠州弁の「やらまいか！里ケア会議」という馴染みの名称で呼び、「やってやろう」という意気込みで各課題に取り組んでいます。改善や検討が必要と思われる事や箇所を日頃の活動から把握し、随時提案しています。事前に看板の取り付けや図書室視察などの問題点をあげ、現地に集合しその場で具体的な改善案を検討したりしています。また、入居者から出された提案や苦情のすべてを入居者に報告し、厳しいご意見にも改善策を検討し対応していくことで、さらに入居者が意見を出しやすい環境を作っています。このような取り組みを行うことでさらなるサービスの質の向上につながっています。
2-4-5 2-4-6	消防署の協力のもと行う防災訓練の他、毎月夜間想定を含めた訓練や初期消火の訓練も行っています。防災マニュアルは、地震・火災・水害等に分かれており、特に地震に関しては発生時の対策から避難誘導に至るまで詳細にマニュアル化されています。東海地震に備え職員はもちろんのこと入居者も防災意識が非常に高く、訓練には入居者も150名ほど参加しています。防災倉庫に、300人3日間分の、食料・水・毛布・簡易トイレ・発電機・食器類が備蓄されており、ライフラインが機能しない際に入居者を守ってこうという姿勢が強くみられます。備蓄品の管理は業者が賞味期限などを考慮し補充しており、訓練の際には備蓄食料を試食するなど、関心を高めてもらえる工夫をしています。また、近くに川が流れており氾濫の可能性も考慮し、実際に職員が川まで行き水量が氾濫危険水位を超えていないか目視することで、避難準備が遅れないように努めています。また、地域の福祉施設や病院から成る「三方原サミット」に参加し、防災をテーマとした話し合いの機会を設けるなど、今後地域ぐるみで災害対策を講じていかれることが期待されます。
7-2-1	退院時在宅酸素が必要になり、一人で出歩くことが難しく居室で過ごすことが多くなったため、閉じこもりがちになってしまった方へ、閉じこもりの予防として入院前まで習慣で楽しみにしていた農園作業や土いじり、草花の手入れを、ケアプランに組み込んで、短期、長期目標をたて、今までの生活や楽しみが継続できるよう支援しています。酸素ボンベを積んで農園まで車イスで移動することを提案し、実際に土いじりや草花の手入れをされ、農園へ行くことを楽しみにされるようになるなど、その方の身体的要因精神的な要因に合わせたプランを入居者と一緒に考え実施しています。
7-3-1	「週2回 個別のケースでそれ以上実施することあり」を原則に、週3回実施するケースが最も多く、体調により清拭にしたり時間や日にちを変更するなどして、個々の希望で対応しています。毎日夕食後に入浴を希望される方へは、介護居室のデイルームにある個浴で職員の見守りの中入浴を行っていただくなど、入居者の希望に応えられるよう最大限の努力をして、入浴を楽しんでもらっています。
7-5-7	レクリエーションやサークル活動は、認知症のある方ない方に係わらず、入居者同士の交流が深められるような催しになっています。定例で行われている茶話会は今年度は「星座茶話会」と称し、同じ星座の方が集まり、お茶を飲みながら、自己紹介をしたり、運営に係わること、イベント、サークル、食事のことなど、思い思いのことを話せる場になり、喜ばれています。年ごとに「干支」「出身地」など変化をつけた茶話会を催すことで、入居者が多いながら色々な方と関われる機会を作っています。年間の行事計画も入居者の希望により、内容を入れ替えるなどして、だれでもが自由に参加し生き活きと過ごせるような働きかけを行っています。